

蓼科高等学校 令和3年度 3学期終業式 講話

校長 宮澤 和人

皆さんお久しぶりでしたが、お元気だったでしょうか。新型コロナウイルス第6波、オミクロン株の大流行で、「まん延防止等重点措置」が2月から3月にかけてとられ、今までで一番行動制限がかけられた3学期でした。現在、重点措置は解除されたものの、長野県の感染症警戒レベルは「5」であり、依然としてとても深刻な状況であることには変わりありません。決して油断をしないように心掛けてください。そのため今回も終業式は放送で行い、離任式だけ短時間体育館で行うことになりました。

この時期おうち時間が増えた分、テレビでのスポーツ観戦をされた人も多かったのではと思います。北京パラリンピック、大相撲などテレビは数々の感動を届けてくれました。中でも大相撲では長野県出身の新大関、御嶽海の活躍です。私は毎日テレビにくぎ付けになっていましたが、皆さんはどうでしょうか。

さて、相撲では関脇・大関・横綱などへ地位が上がると、その力士への伝達式というものが行われ、力士は口上といって、その地位を受ける自分の心構えを述べる儀式があります。御嶽海は先月、伝達式で大関昇進決定を使者から告げられると、こう言いました。「大関の地位を汚さぬよう、感謝の気持ちを大切にし、自分の持ち味を生かし、相撲道にまい進してまいります」と力強く口上を述べました。難しい4文字熟語のない、とても分かり易い口上でした。しかしそこには様々な思いがあったそうです。特に、「感謝の気持ちを大切に」というフレーズです。これは、御嶽海が尊敬する木曾福島中学校時代の相撲部顧問であった、安藤先生のことを思い浮かべて考えたフレーズだそうです。木曾の上松町出身の御嶽海は、本来ならば上松中学校に進学するはずでした。しかし、木曾福島中学校に相撲部があるのにあこがれて、あえて遠い中学校を選んだのでした。この選択がなければ、そして安藤先生との出会いという奇跡がなければ、今の御嶽海はなかったわけです。だからこそ、先生に対する感謝の気持ちが人一倍あったのではないのでしょうか。

このように、人との出会いは奇跡の連続です。皆さんが毎日何気なく教わっている先生との出会い。また、皆さんが日常接している友達との関係も、そのような奇跡のうえで成りたっているのではないのでしょうか。「一期一会」という言葉があるとおおり、みなさんは、毎日の人と人との出会いを大切にしてください。現在の私のことを話しますと、親友といえる人の多くが、高校時代と大学時代の友達ですし、本当にお世話になったと尊敬する先生は、中学校と高校時代に多いです。高校時代の出会いは、数十年後の皆さんの人生に豊かさや幸せをもたらしてくれます。また、その良い出会いのきっかけになるのが、挨拶です。

日頃の友人関係でも部活動でも生徒会活動でも、皆さんは出会いを大切に、これから素晴らしい来年度を作り出してほしいと願っています。 終わります。